

高等学校・日本史B・「明治維新と立憲体制の成立」①

育成を目指す資質・能力

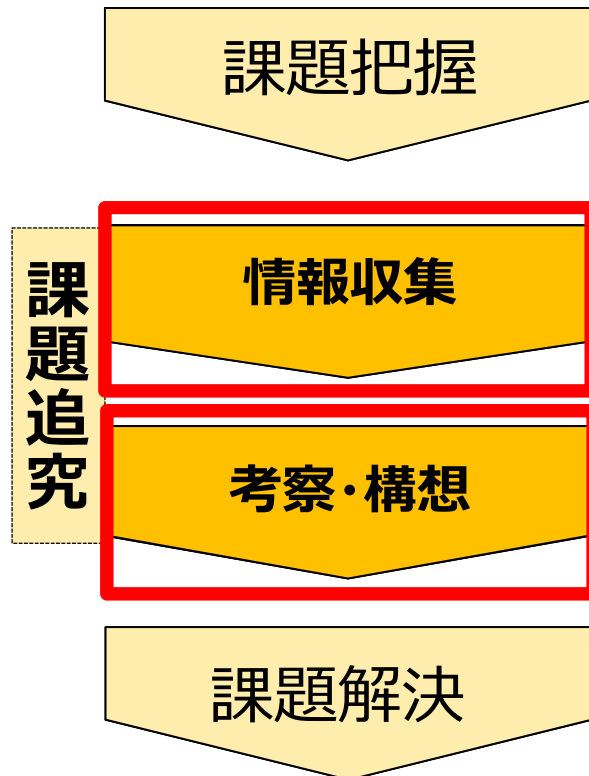
資料を読み取る技能を高めるとともに、読み取った情報から、近代日本における立憲体制の特色について考察、理解する。博物館などが公開しているデジタル資料の活用を通じ、歴史資料への関心、資料保存・公開施設の役割や文化財保護への関心を高めることで、生涯にわたる学習の大切さに気付くようにする。

ICT活用のポイント

デジタル・アーカイブを活用することで、生徒一人一人が歴史上の当事者(この場合は天皇や政府)が示した実際の歴史資料を扱い、彼らの政策意図や当時の在り方を直接資料から読み取ることができる。必要な情報を収集して読み取ったり、読み取った情報を分類・整理して話し合ったりする際に、1人1台のICT端末を活用することで、深い学びに向けた学習改善を図ることができる。

事例の概要

- 「**学習課題の解決に向けて必要な情報を収集する場面**」において
大日本帝国憲法の前文の役割を示している天皇の言葉である「上諭」を、生徒が普段使い慣れている言葉に意識する学習活動を通して、資料活用の技能を高める。博物館や資料館などが公開しているデジタル資料を活用することで、資料の形態や保存状況にも着目し、保存・保全などの努力が図られていることに気付くようにする。
- 「**考察し、構想する**」場面において
読み取った内容を基に、憲法の内容の概略と、当時の天皇や政府が憲法をどのように意味付けて公布したのかについて考察し、グループで話し合う。気付いたことを、1人1台のICT端末を活用して発表やクラスでの共有を行うことを通して、近代の日本の立憲体制の特色について考察し、理解する。
また、授業前に、各自がICT端末を活用して、小・中学校の学びを踏まえた「大日本帝国憲法」のイメージを記録し、授業後の成果と比較することで、自らの学びの深まりを確認することができる。



高等学校・日本史B・「明治維新と立憲体制の成立」②

学習課題：「日本の立憲体制の特徴を探ろう」

【学習課題の解決に向けて必要な情報を収集する場面】

「御署名原本」の「上諭」(天皇による憲法公布の言葉)を分担して意識する。



課題（問い）：「大日本帝国憲法の内容や制定の意義を示した天皇の言葉を、普段の言葉に訳してみよう。」

- アジア歴史資料センター「御署名原本」の「上諭」部分を、電子辞書などを使用して、「意識」する。

ICT活用のメリット

- 様々な歴史情報のデータベースの活用により、学習のねらいを踏まえたに適切な資料を収集、考察

【考察し、構想する場面】



グループで「憲法と天皇の関係」「天皇と内閣・議会の関係」「天皇と臣民（国民）の関係」などについて話し合い、気付いたことを他のグループとも共有する。

課題（問い）：「自分たちで訳した資料を基に、a:憲法と天皇の関係、b:天皇と内閣・議会の関係、c:天皇と国民(臣民)の関係、についてまとめてみよう。」

「近代日本の立憲体制の理解について、新たに気付いたことをまとめてみよう。」

- 他者と協働して考察したことを整理し、クラス全体で共有する。
- 授業前に記述した自身の見通しを授業後に確認し、自分の考えの変化について振り返り、それを共有する。

ICT活用のメリット

- 資料に活用した考察や理解の深まりと、協働的な学習による自らの考えの深まりの確認

【活用したソフトや機能】 ウェブブラウザ ファイル共有機能